

医療等分野における番号制度の活用等に関する研究会
(中間まとめ：参考資料)

医療等分野における番号制度の活用等に関する研究会

- 医療等の分野での番号の必要性や具体的な利用場面について、社会保障・税番号制度の制度設計等を踏まえつつ、検討を行う。年内に一定のとりまとめを目指す。

研究会設置までの経緯

- ・ 医療等分野における番号の活用等については、平成24年9月に、医療関係者、保険者、情報政策の有識者等による検討会のとりまとめで、「詳細な仕組みや利用場面を分かりやすい形で提示し、その必要性を含め検討する必要がある」とされた。
- ・ 平成26年6月の日本再興戦略（閣議決定）では、「医療等分野における番号制度の活用等に関する研究会において、医療分野における番号の必要性や具体的な利活用場面に関する検討を行い、年内に一定の結論を得る」とされている。

検討事項

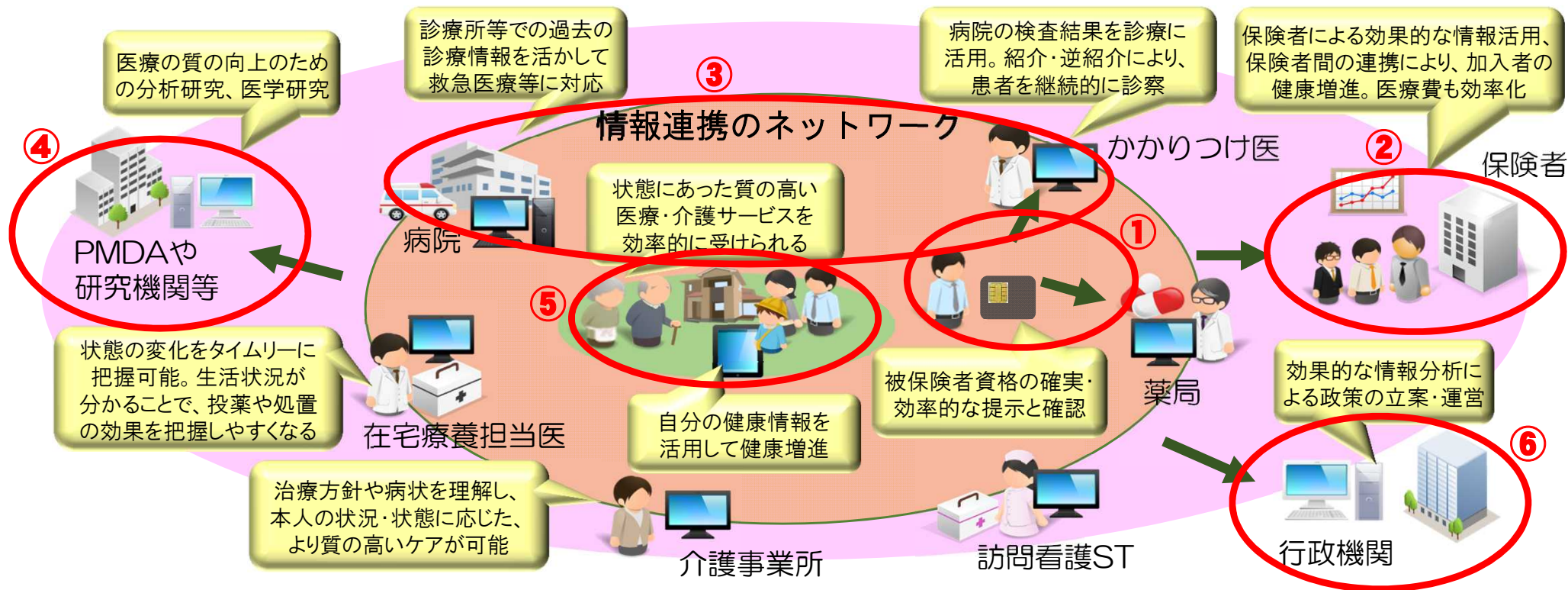
- ・ 医療等分野における番号の具体的な利用場面
 - ①医療保険のオンラインでの資格確認
 - ②医療機関等の連携（地域レベル、複数地域間）
 - ③健康・医療の研究分野（追跡研究、大規模分析）
 - ④健康医療分野のポータルサービス
 - ⑤がん登録 等
- ・ 番号を活用した情報連携基盤、技術検証 等

構成員

飯山 幸雄	国民健康保険中央会常務理事
石川 広己	日本医師会常任理事
大道 道大	日本病院会副会長
大山 永昭	東京工業大学像情報工学研究所教授
伊奈川 秀和	全国健康保険協会理事
金子 郁容	慶應義塾大学政策・メディア研究科教授【座長】
佐藤 慶浩	日本ヒューレット・パカード（株）個人情報保護対策室室長
霜鳥 一彦	健康保険組合連合会理事
新保 史生	慶應義塾大学総合政策学部教授
田尻 泰典	日本薬剤師会常務理事
富山 雅史	日本歯科医師会常務理事
馬袋 秀男	『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会特別理事
樋口 範雄	東京大学大学院法学政治学研究科教授
南 砂	読売新聞東京本社調査研究本部長
森田 朗	国立社会保障・人口問題研究所長
山口 育子	NP0法人ささえあい医療人権センターCOML理事長
山本 隆一	東京大学大学院医学系研究科特任准教授【座長代理】

医療等分野での番号による情報連携が想定される利用場面（ユースケース）

（※）マイナンバーに限定しない、医療等分野での番号（電磁的な符号を含む）を用いた情報連携



①

医療保険のオンライン資格確認

受診時の被保険者資格の提示と確認を、オンラインで確実・効率的に行う。公的医療サービスの公正な利用の確保、請求支払事務の支援・効率化にも資する。

②

保険者間の健診データの連携

（資格異動時の健診データの活用等）

保険者が、加入者の健診データを効果的に活用。加入者の健康増進につなげる。質の高い医療資源の有効な活用につながり、医療費も適正化される。

③

医療機関・介護事業者等の連携

（地域レベル、複数地域間での連携）

病院での検査結果をかかりつけ医の診療に活用、患者を継続的に診察。救急医療で、他医療機関での過去の診療情報を確認、適切な救急医療を提供。医療・介護従事者が連携して地域包括ケアを実現

④

健康・医療の研究分野

（コホート研究、大規模な分析）

レセプトNDB（レセプトデータベース）の活用。コホート研究（追跡研究）、大規模な分析研究を推進。その成果を医療の質の向上につなげる。行政はデータ分析の結果を政策の立案・運営に活用

⑤

健康医療分野のポータルサービス

（医療健康履歴の確認、予防接種の案内）

国民が自ら健康・医療の履歴や記録を確認できる仕組み（PHR）を整備、健康増進に活用。予防接種等の履歴の確認やプッシュ型の案内が可能になる。

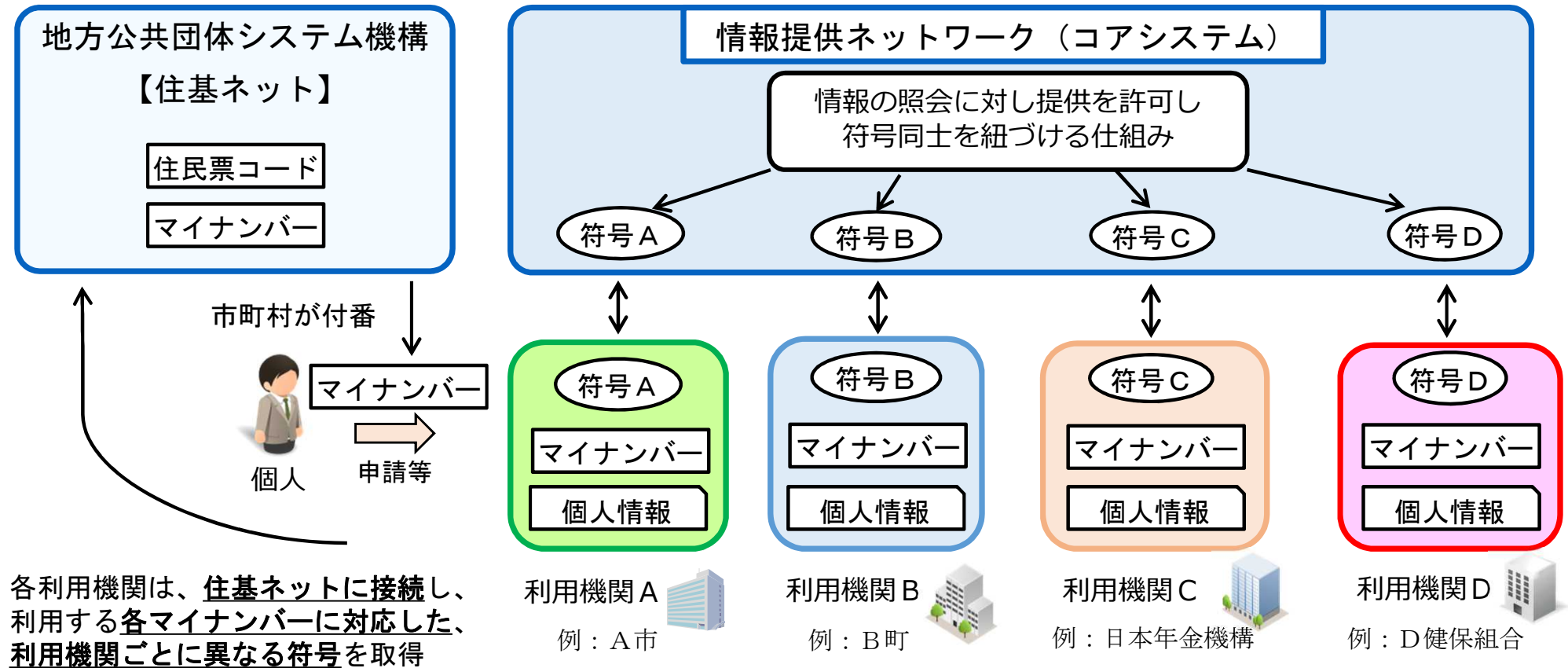
⑥

全国がん登録

がんの罹患、診療、転帰等の状況をできるだけ正確に把握・調査研究に活用。成果を国民に還元

番号制度のインフラによる情報連携の仕組み

- 番号制度のインフラでは、番号の利用機関同士の情報連携（情報照会と情報提供）を行う場合、マイナンバーを直接用いず、各機関ごとにマイナンバーに対応して振り出された機関別符号を利用する。これにより、マイナンバーで芋づる式に情報が漏えいすることを防止する仕組みとしている。



- 保険医療機関・保険薬局（約23.3万施設）がそれぞれ住基ネットに接続して機関別符号を取得し、情報提供ネットワークに接続するのは、各医療機関の負担や制度全体でも大きなコストがかかり、実務上の課題がある。



資格確認のための保険者との情報連携
（資格情報の照会と取得）

各保険医療機関、保険薬局（約23.3万施設）



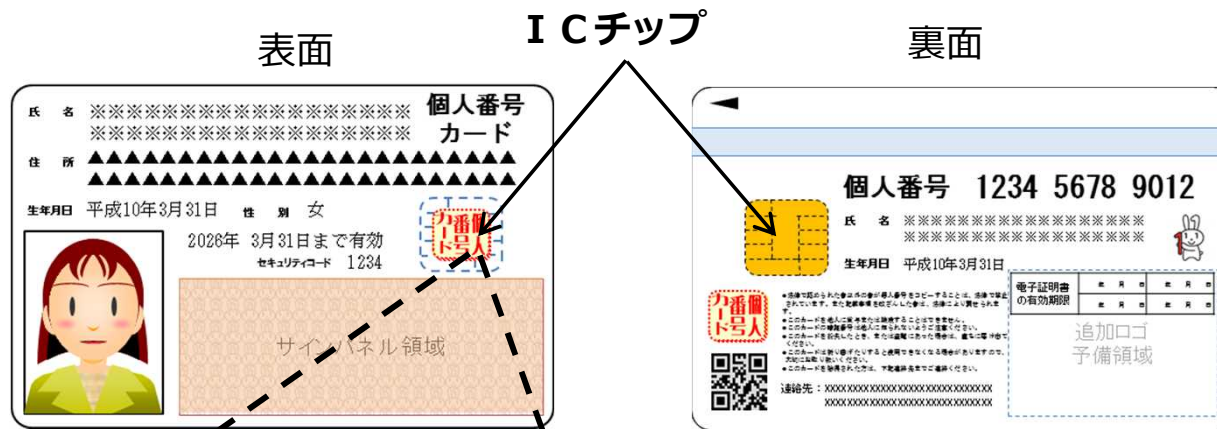
病院 約8,600カ所

歯科診療所 約6.8万カ所

診療所 約10万カ所

薬局 約5.6万カ所

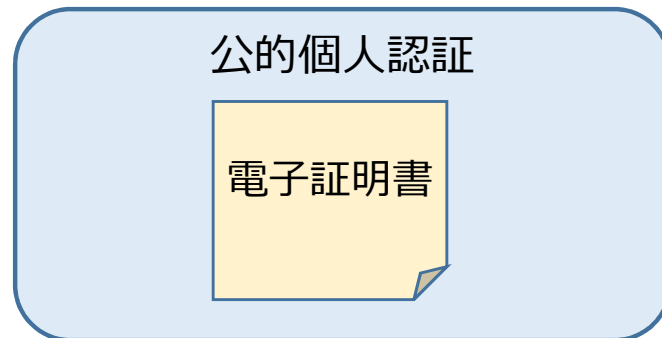
個人番号カードの機能と期待される活用方法



マイナンバーは個人番号カードの裏面に記載

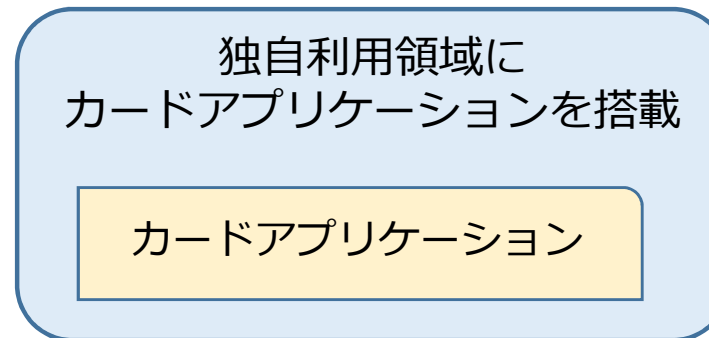
定められた利用目的以外でのマイナンバーの書き写し等は不正利用であり、法律で禁止されている

マイナンバー（カード裏面の12桁の番号）ではなく I C チップの領域を活用した方法



公的個人認証の活用例

- ・ e-tax などインターネットの行政手続きでの本人確認
- ・ インターネットでの預金口座の開設等
- ・ マイ・ポータルの本人確認（番号制度で検討）



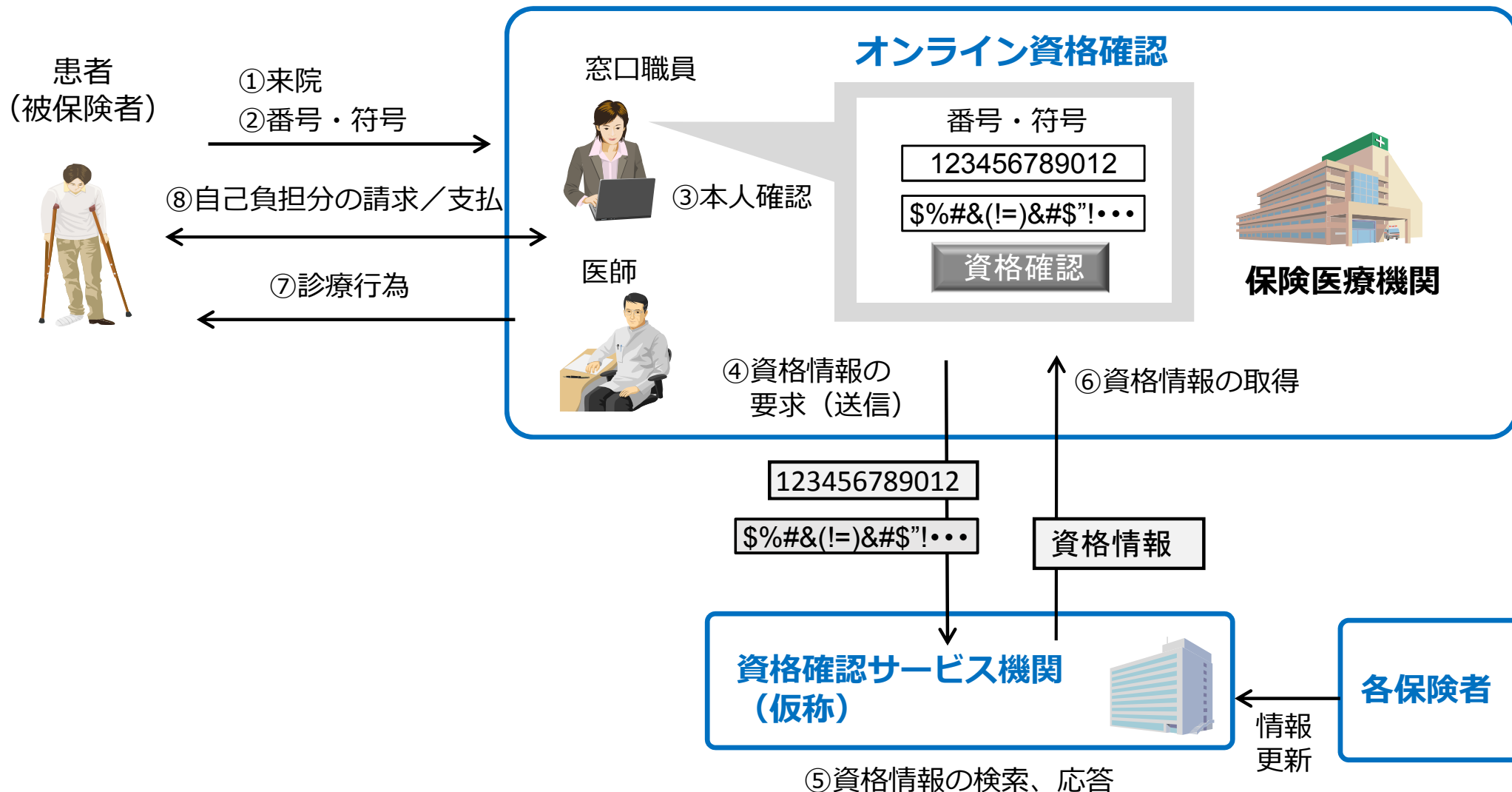
現在の住基カードでの活用例（条例を制定）

- ・ 住民票、印鑑証明書、税証明書等の交付サービス（事業者と協定して、コンビニでの交付も実現）
- ・ 図書館の利用カード
- ・ 商店街のポイントサービス（長浜市）

※ I C チップに搭載するカードアプリケーションは、独自サービスの提供に必要な情報を登録し、それぞれのサービスに専用に利用される。他のサービスからの利用・参照ができないなど、セキュリティも配慮されている。

医療保険のオンラインでの資格確認（イメージ）

- 受診時の被保険者資格の提示と確認を、オンラインで确实・効率的に行う。
- 公的医療サービスの公正な利用の確保、転記ミスがなくなるなど請求支払事務の支援・効率化に資する。



(※) 平成22年度の支払基金のデータでは、資格関係の請求誤りのレセプト件数は約414万件（うち資格喪失後の受診件数は約172万件、旧被保険者証の使用での発生件数は約9.3万件）。主な原因は、新しい被保険者証の確認漏れと保険医療機関等での入力ミスによるものと推定される。

医療保険のオンライン資格確認の仕組み（イメージ）

○ オンライン資格確認は、医療保険の既存インフラも活用しながら、番号制度のインフラも活用し、できるだけコストがかからない、安全で効率的な仕組みとする必要がある。公的個人認証など個人番号カードの機能や最新の情報技術も活用しながら、初期・運営コストも検証しつつ、検討するための一例として、以下のような仕組みが考えられる。

※ オンライン資格確認の導入は、番号制度の情報連携のインフラを活用するので、早くても、マイナンバーによる保険者の情報連携が稼働する平成29年7月以降になると考えられる。

① 医療保険者の機関別符号又はマイナンバーを変換する方法等により、医療保険の加入者1人1番号で重複がない「医療保険の資格確認で用いる電磁的な符号」（以下「保険資格符号（仮称）」という）（※）を発行する。

※ 保険資格符号（仮称）の発行方法は、関係機関と調整が必要である。

※ 保険資格符号（仮称）は、番号法上は個人番号と同じ位置づけであり、特定個人情報保護の規制が課される。

② 医療保険の資格確認サービスを行う「資格確認サービス機関（仮称）」は、各医療保険者の委託を受けて、被保険者の資格情報を、マイナンバーを活用して管理する。

③ 保険医療機関等は、患者の受診時に、例えば、個人番号カード（※）から保険資格符号（仮称）を電磁的に読み取り、資格確認サービス機関（仮称）に、資格確認の要求をする。保険資格符号（仮称）に代えて、個人番号カードに搭載される公的個人認証の電子証明書で、本人確認を要求することもできる。

※ 保険資格符号（仮称）を用いる場合は、個人番号カードへの記録方法は、利用者の利便性の観点から検討する。

※ 公的個人認証の仕組みの活用については、コストを含め、関係者と調整が必要である。

※ 個人番号カードを用いる場合、ICチップをカードリーダーで読み取り個人番号カードを預からない、表面のみが見えるカードケースの利用など、マイナンバーが視認されて不正に利用されることを防止する仕組みを担保するよう検討。

※ 保険給付を受けるため、被保険者証も提示する必要がある。ただし、コストを含めて関係者と調整が必要であるが、医療保険制度において、公的個人認証を活用し、保険者が個人番号カードを被保険者証として認証することにより、個人番号カードを提示した場合は被保険者証の提示を要しない仕組みとすることもできる。

※ 保険医療機関等と資格確認サービス機関（仮称）とのやりとりは、安全でできるだけコストがかからないよう、例えば、レセプトオンライン請求の専用回線など、既存のインフラを活用する。

※ 医療機関等では、個人番号カードの読み取りのためのカードリーダーが必要になる。患者や窓口職員の利便性の観点から、個人識別番号（P I N）の入力を必要としない本人確認の方法を検討する必要がある

④ 資格確認サービス機関（仮称）は、保険資格符号（仮称）を用いて被保険者の資格情報を引き当て、保険医療機関等に送信する。公的個人認証の電子証明書を用いる場合、資格確認サービス（仮称）が、公的個人認証サービスに電子証明書の有効性を照会・確認し、その電子証明書に対応する資格情報を引き当て、保険医療機関等に送信する。

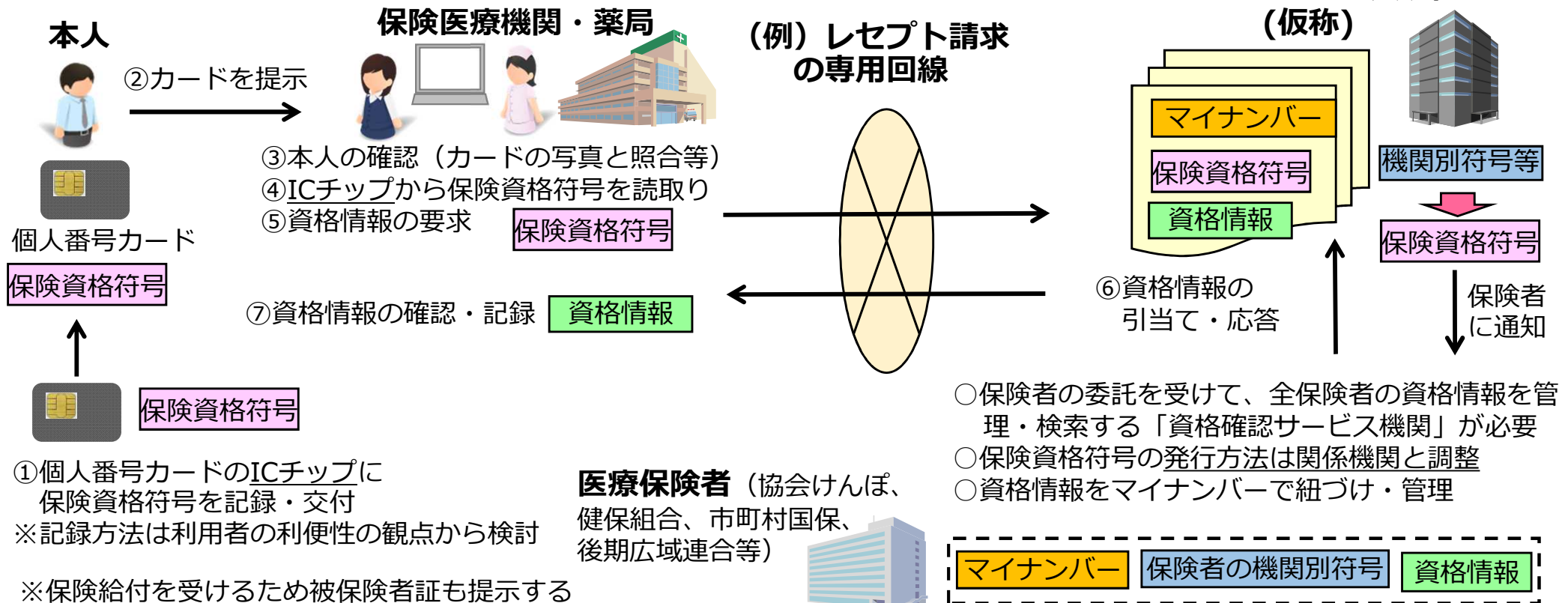
⑤ 資格確認サービス機関（仮称）は、大部分が民間部門である保険者と医療機関等が利用することから、運営コストの負担を含め、医療保険関係者の納得が得られ、コスト意識をもって、安全でできるだけ効率的な運営が期待できる主体（複数の主体が共同で運営する場合も含む）が運営を担うことが適当と考えられる。

医療保険のオンライン資格確認の仕組み①（イメージ）

（※） 公的個人認証や最新技術を活用して、より安全・効率的な仕組みも考えられるので、関係者と検討するための一例

- 番号制度のインフラをオンライン資格確認で活用するため、マイナンバーを補完する方法として、マイナンバー等から変換した「医療保険の資格確認に用いる符号」（保険資格符号（仮称））を用いる仕組みが考えられる。
- 保険医療機関等は、番号制度の情報提供ネットワークシステムではなく、例えばレセプトオンライン請求の専用回線など既存のインフラの活用が考えられる。

【個人番号カードを活用した案】



【資格確認の主な流れ】

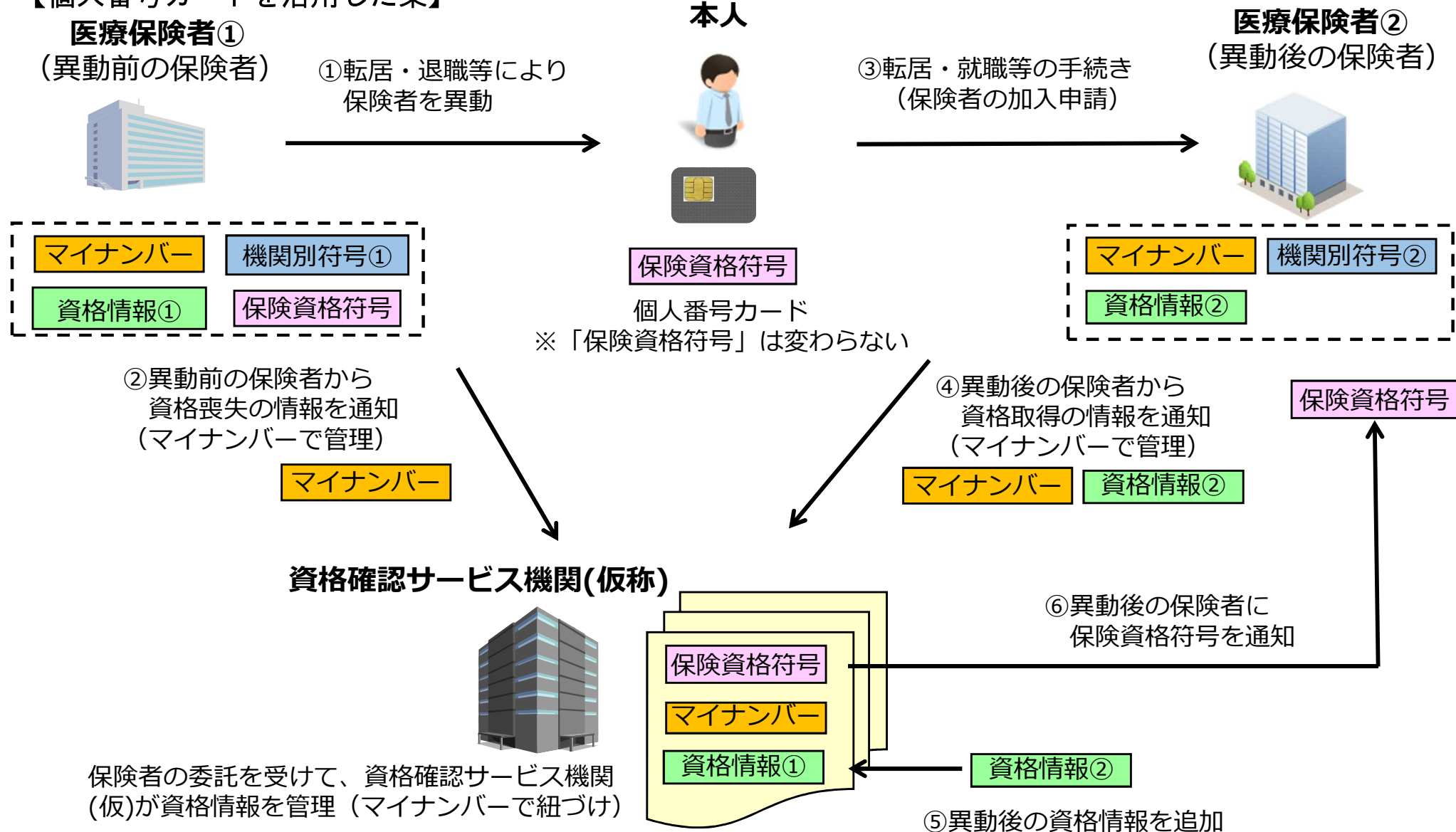
- ①：「個人番号カード」に保険資格符号（仮称）を記録し、被保険者に交付する
※保険資格符号の発行方法は関係機関と調整 ※個人番号カードへの記録の方法は、利用者の利便性の観点から検討
- ②：被保険者は、保険医療機関・薬局に受診する際、個人番号カードを提示する
- ③～⑤：保険医療機関・薬局は、本人の確認をして、職員等がICチップから保険資格符号を読み取り、「資格確認サービス機関（仮）」に対し、保険資格符号を用いて資格情報を要求する（例えば、レセプト請求の専用回線経由）
- ⑥～⑦：「資格確認サービス機関（仮）」は、保険資格符号に対応する資格情報を引き当てて応答。保険医療機関等に通知される

加入する保険者が変わった場合（イメージ）

（※）公的個人認証や最新技術を活用して、より安全・効率的な仕組みも考えられるので、関係者と検討するための一例

- 保険者が変わっても、保険資格符号（仮称）は変わらないので、個人番号カードに記録した保険資格符号（仮称）を書き換える必要がない。加入する保険者が変わった場合、資格確認サービス機関（仮称）が、マイナンバーと紐づけて、新しい資格情報を管理する。

【個人番号カードを活用した案】

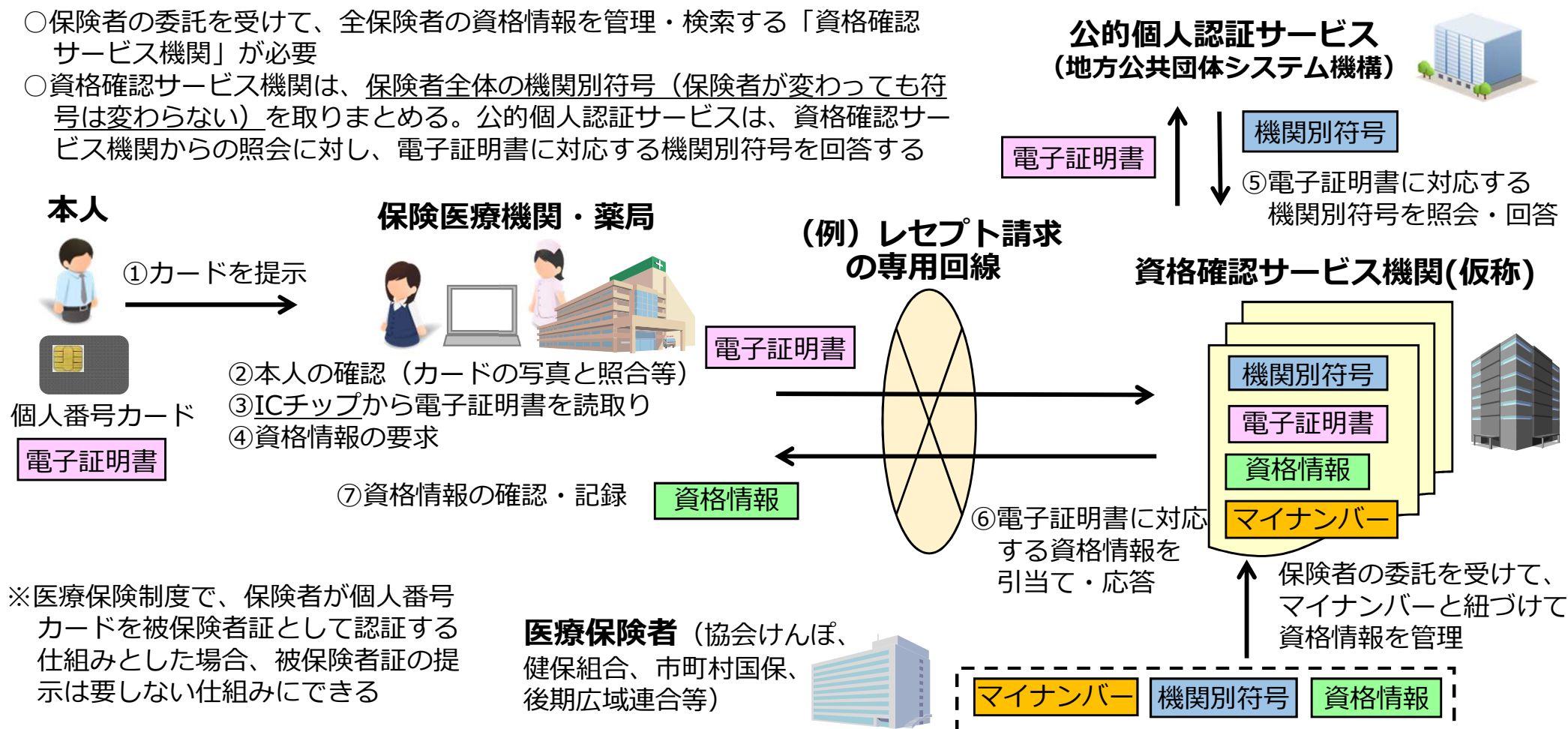


医療保険のオンライン資格確認の仕組み②（イメージ）

（※）**公的個人認証の仕組み**を活用した検討の一例。導入コストや運営コストを含め、保険者・関係機関との調整が必要

○ 公的個人認証の仕組みを活用して、保険医療機関等は、個人番号カードから電子証明書を読み取り、資格確認サービス機関（仮称）に資格情報の照会・確認を行う。保険医療機関等では番号・符号を用いない。

- 保険者の委託を受けて、全保険者の資格情報を管理・検索する「資格確認サービス機関」が必要
- 資格確認サービス機関は、保険者全体の機関別符号（保険者が変わっても符号は変わらない）を取りまとめる。公的個人認証サービスは、資格確認サービス機関からの照会に対し、電子証明書に対応する機関別符号を回答する



※医療保険制度で、保険者が個人番号カードを被保険者証として認証する仕組みとした場合、被保険者証の提示は要しない仕組みにできる

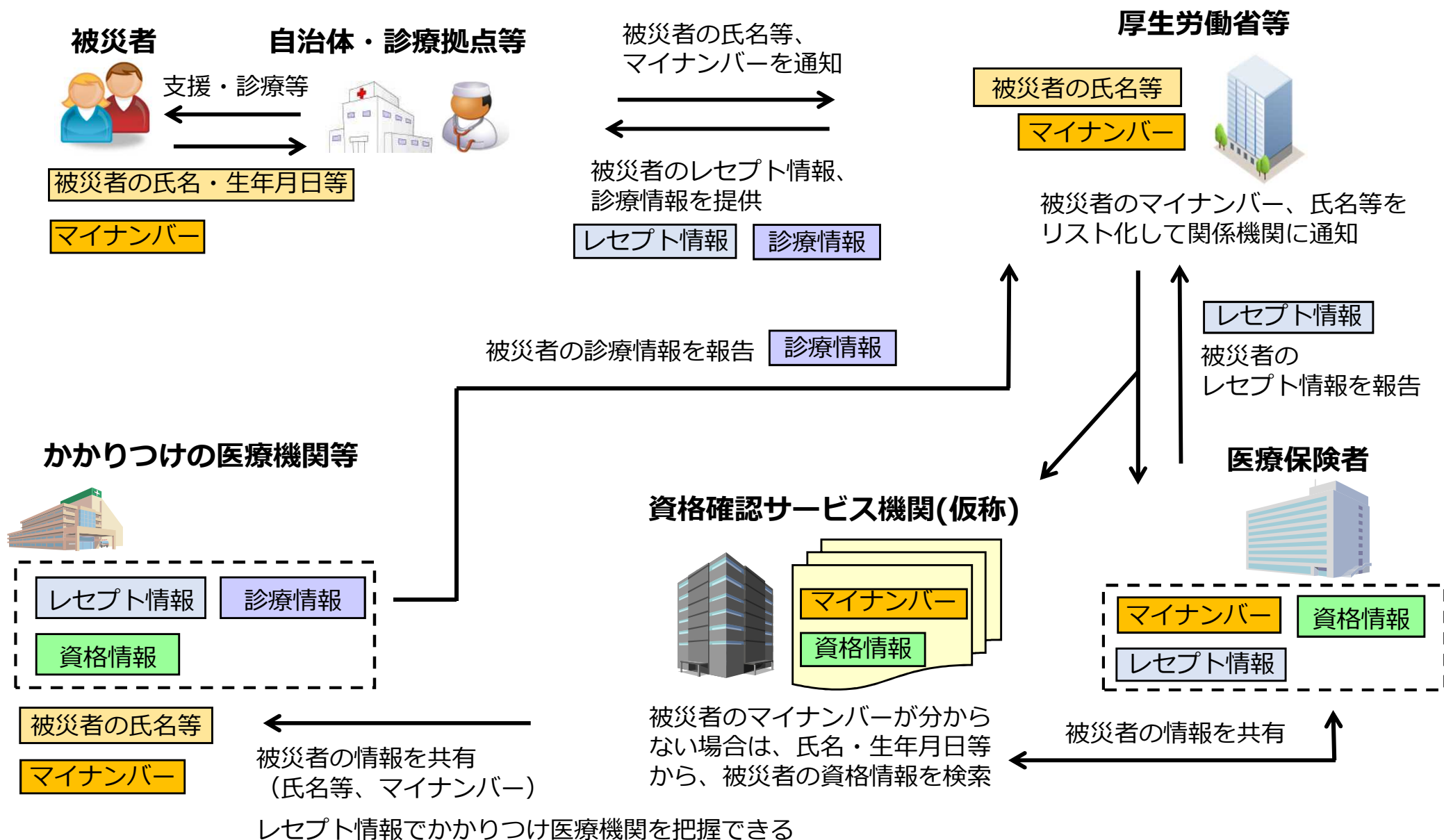
【資格確認の主な流れ】

- ①：被保険者は、保険医療機関・薬局に受診する際、個人番号カードを提示する
- ②～④：保険医療機関・薬局は、本人の確認をして、職員等がICチップから電子証明書を読み取り、「資格確認サービス機関(仮)」に対し、電子証明書に対応する医療保険の資格情報を要求する
- ⑤～⑦：「資格確認サービス機関(仮)」は、公的個人認証サービスに電子証明書に対応する機関別符号を照会。回答された機関別符号を用いて、電子証明書に対応する資格情報を引き当てて、保険医療機関等に通知する。

大規模な災害時での対応（イメージ）

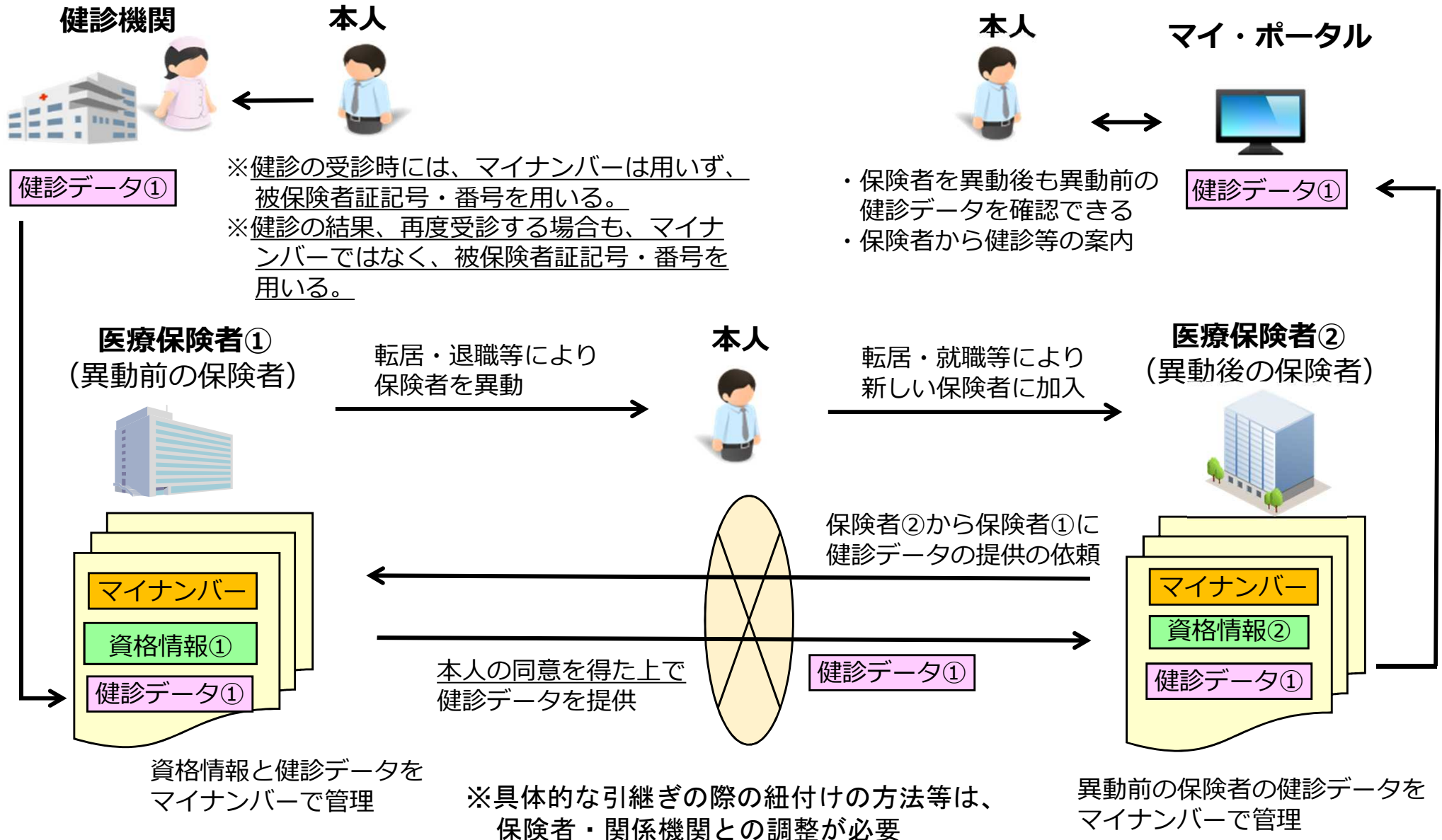
○ 大規模な災害時では、関係行政機関等で、被災者の氏名等によりマイナンバーを確認し、マイナンバーと紐づけてレセプト情報や診療情報を、現場の医療従事者等に伝え、被災者への支援を行う。

（※）現行の番号法では、人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合で、本人の同意があり、又は本人の同意を得ることが困難であるときは、特定個人情報の提供が認められている。



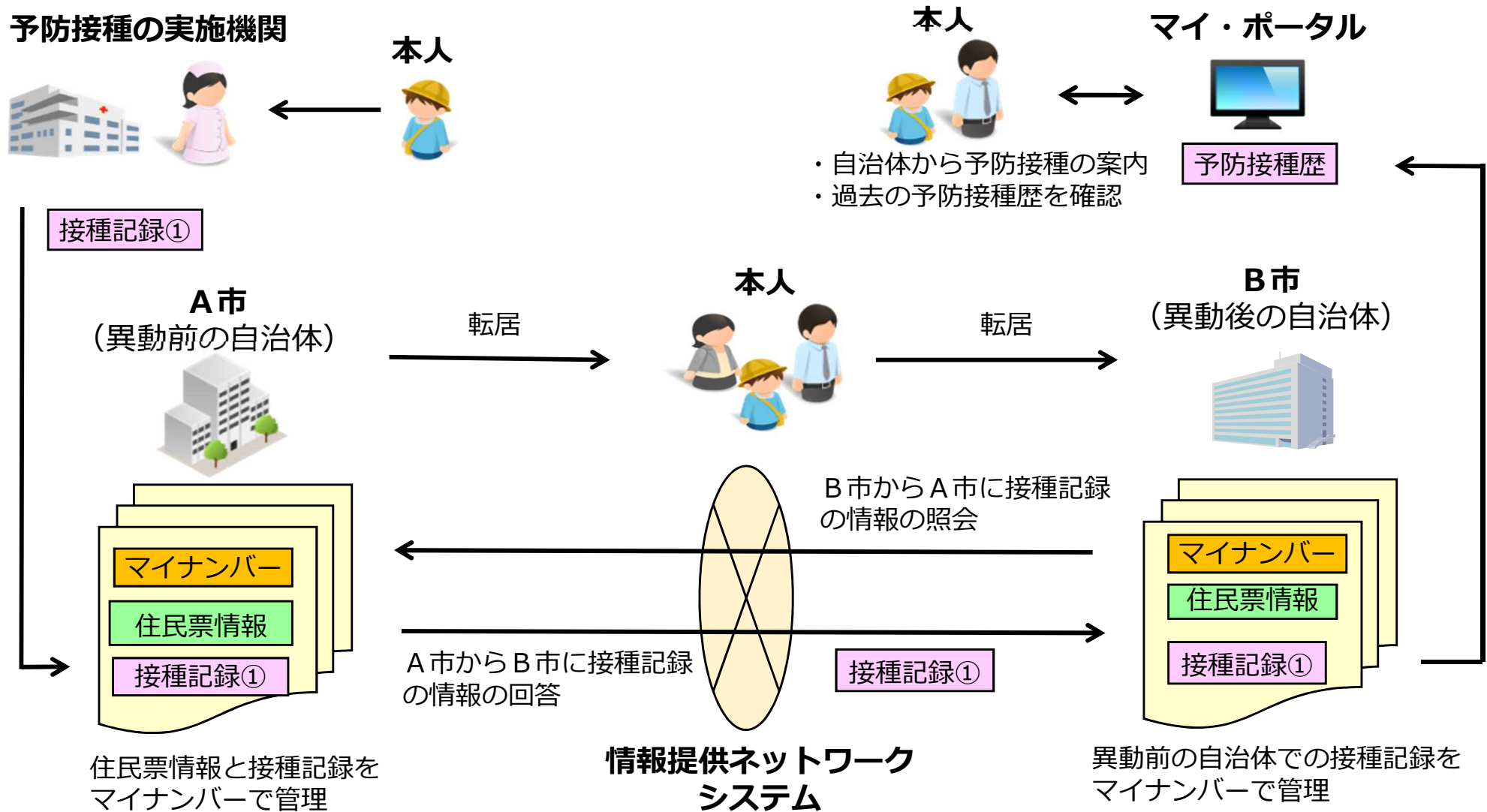
保険者間での健診データの連携・活用（イメージ）

- 保険者が、加入者の資格情報と特定健診等の健診データをマイナンバーで紐づけて管理する。保険者を異動しても、特定健診等の保健事業の情報を保険者間で円滑に引き継ぐことで、効果的な保健事業の実施が可能になり、加入者の健康増進の取組にもつながる。
- 健診データは個人情報であり、現行制度と同様、本人同意を確保した情報連携の仕組みとする必要がある。



予防接種歴の管理や本人が予防接種歴を確認できる仕組み（イメージ）

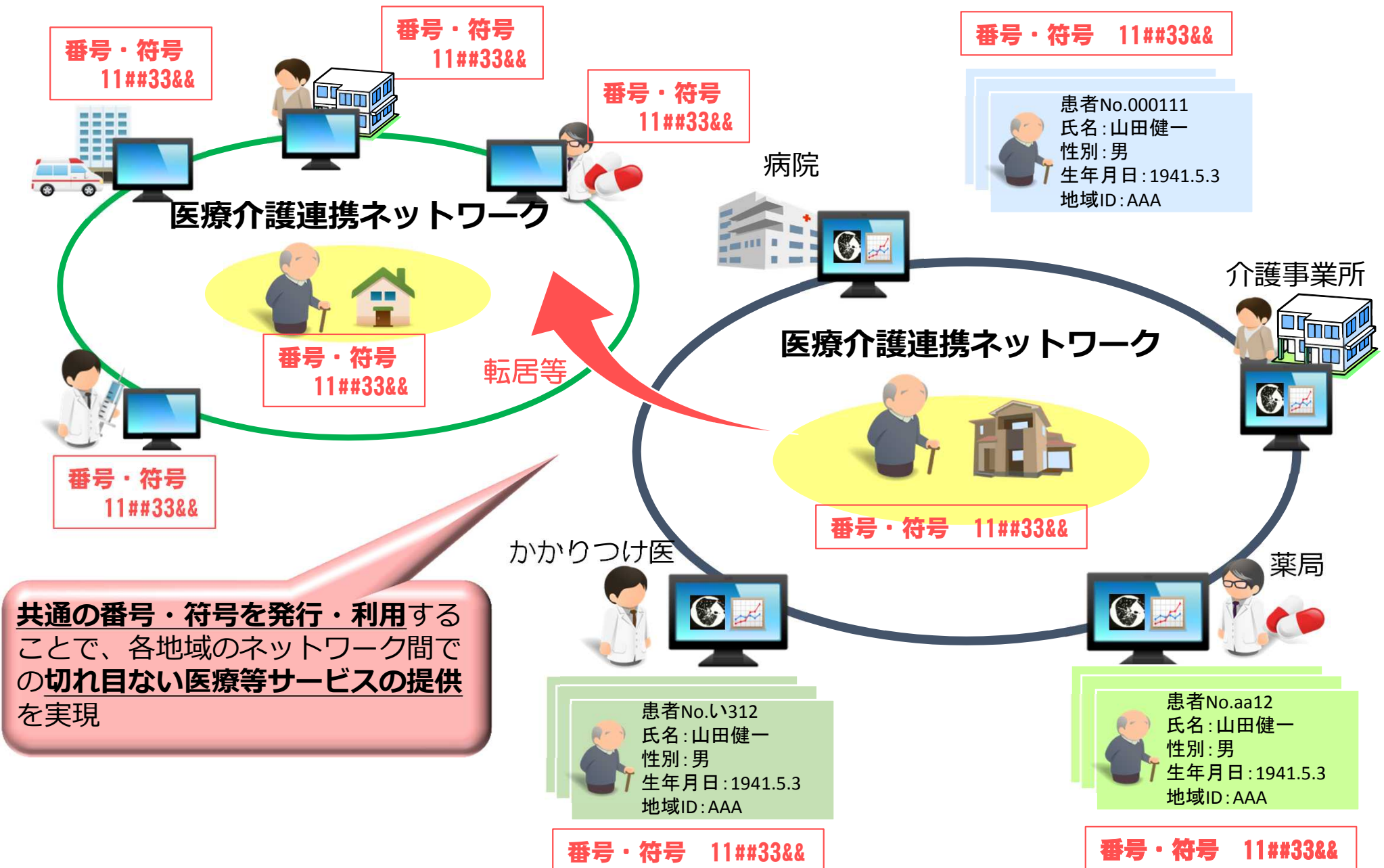
- 予防接種法に基づく予防接種の実施は、自治体の行政事務。マイナンバーによって転居の際の住民票情報との紐づけが可能となり、自治体間での接種記録の情報管理・検索が確実・効率的にできる。
- マイ・ポータルでは、本人に特定個人情報を開示する仕組みがあるので、予防接種歴を見れるようになる。



※予防接種法に基づく予防接種は、接種の実施に当たって、接種についての本人の同意を得ている。この予防接種歴は、公衆衛生行政の実施に当たって必要な情報であり、健康被害の救済にも必要な情報であるので、法律上の手当をすれば、本人の同意なく自治体間で予防接種歴の連携ができると整理して差し支えない

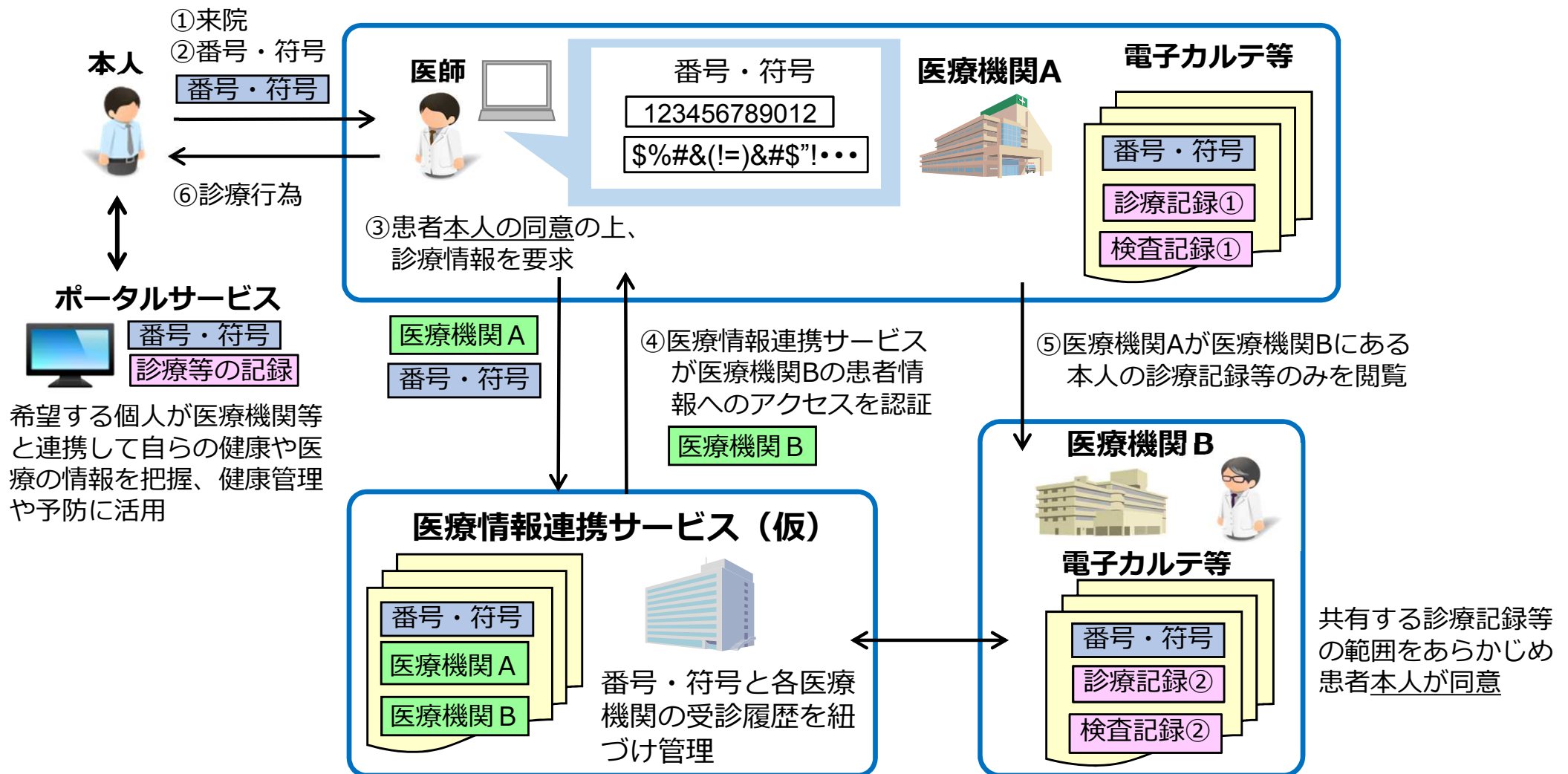
地域ごとの医療介護ネットワーク間での番号の活用（イメージ）

- 各地域レベルでは、医療機関、介護施設等が加入する情報連携のネットワークの取組が進められている。複数の地域のネットワーク間で共通の番号・符号を活用することにより、地域のネットワーク間での連携の取組を推進できる。



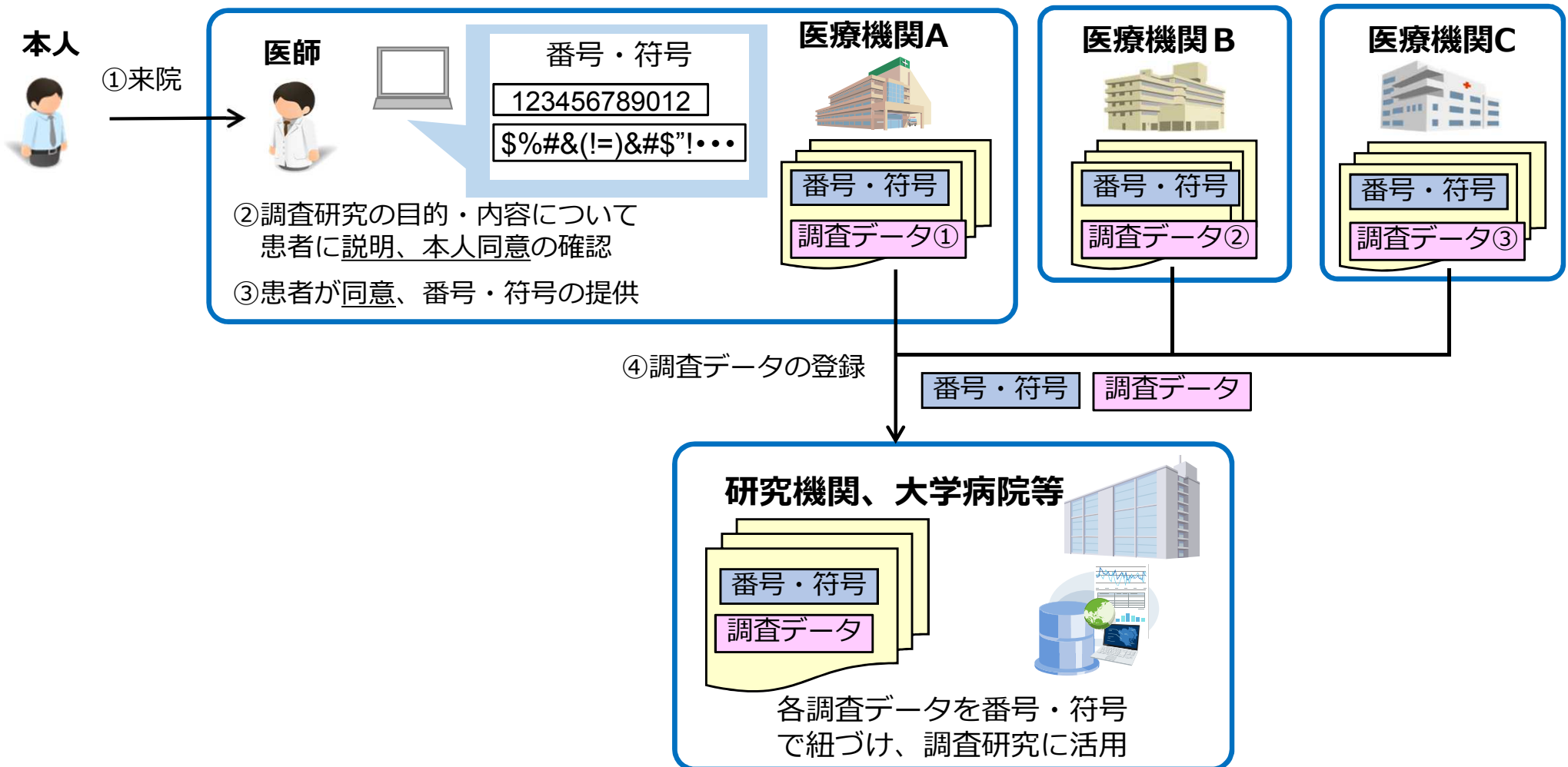
医療機関等の連携の利用場面での番号の活用（イメージ）

- 患者への適切な医療を行うため、患者の同意のもとで、他の医療機関での診療記録等を共有することは、現在でも行われているが、医療等分野の番号（電磁的な符号を含む）を活用することで、本人の同意のもとでの安全で効率的な情報連携の仕組みが考えられる。
- 希望する個人が医療機関等と連携して、自らの健康や医療の情報を把握し、健康管理や予防に活用する仕組みも考えられる（ポータルサービス）。



健康・医療の研究分野での番号の活用（イメージ）

- 臨床現場と医学研究は密接に関連している。医療等分野の番号（電磁的な符号を含む）を用いることで、研究活用への患者本人の同意のもとで、同一の患者群についての長期間にわたる追跡研究や、複数の医療機関等のデータを集積した大規模なデータ分析など、データの収集や突合を効率的に行うことが可能になる。



参 考 資 料

日本再興戦略 -JAPAN is BACK-（平成25年6月14日・閣議決定）＜抜粋＞

○ 医療情報の利活用推進と番号制度導入

・地域で行われている医療情報連携ネットワークの全国への普及・展開を進め、医療情報の利活用と保護を図るため必要な措置を講ずるなど環境整備を行う。また、個人一人ひとりが自分の医療・健康データを利活用できる環境を整備・促進し、適正な情報の活用により適切な健康産業の振興につなげるべく検討を進め、国民的理解を得た上で、医療情報の番号制度の導入を図る。このため、まずはデータやシステム仕様の標準化、ガイドライン作成等の運用ルールの検討等の環境整備を行う。

日本再興戦略 改訂2014－未来への挑戦－（平成26年6月24日・閣議決定）＜抜粋＞

①健康・医療分野におけるICT化に係る基盤整備

・医療等分野における番号制度の活用等に関する研究会において、医療分野における番号の必要性や具体的な利活用場面に関する検討を行い、年内に一定の結論を得る。

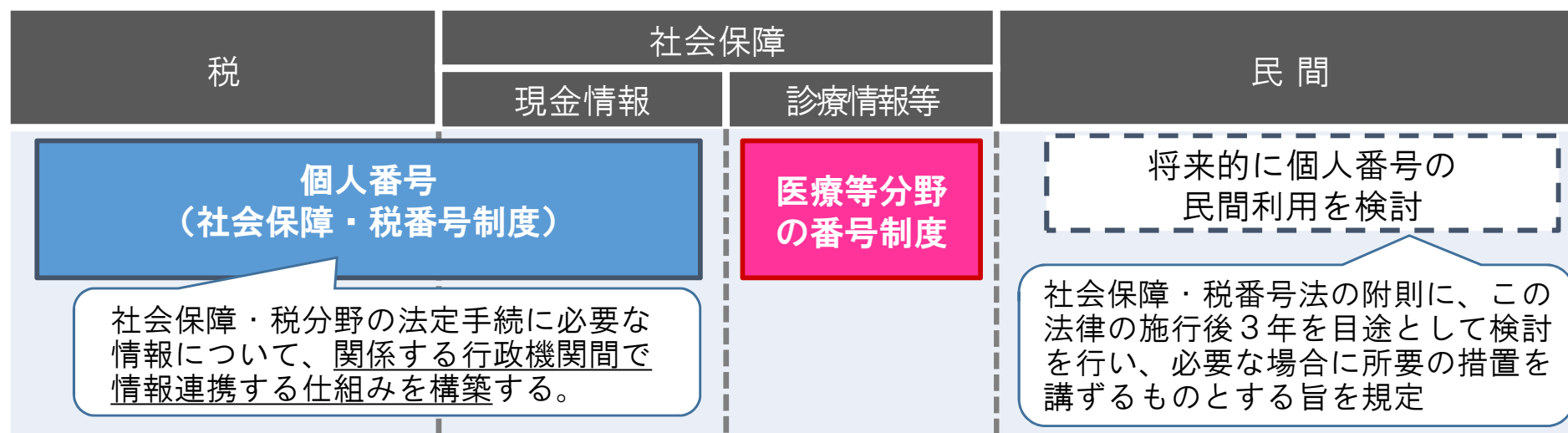
世界最先端 IT国家創造宣言（平成26年6月24日・閣議決定）＜抜粋＞

Ⅱ 3 （1）利便性の高い電子行政サービスの提供

・個人番号カードについては、そのICチップの空き領域や公的個人認証サービス等を活用し、健康保険証や国家公務員身分証明書など、公的サービスや国家資格等の資格の証明等に係るカード類の一体化／一元化、個人番号カードで利用できるコンビニエンスストアでの住民票の写し等の交付等のサービスの拡大、放送・通信分野等における個人番号カードの民間利活用場面の拡大、実社会における対面及びオンライン上の非対面での本人確認手段としての利活用場面の拡大や、取得に係る負担の軽減等により、広く普及を図る。

番号制度でのマイナンバーの利用範囲について

- 社会保障・税番号制度は、行政機関等を情報連携対象として、社会保障・税・災害対策の各分野で利用することとされている。



○個人番号の利用範囲（番号法別表）

「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」（平成25年法律第27号）

社会保障分野	年金	年金の資格取得・確認・給付に利用 ○国民年金法、厚生年金保険法による年金の支給に関する事務 ○確定給付企業年金法、確定拠出年金法による給付の支給に関する事務
	労働	雇用保険等の資格取得・確認・給付。ハローワーク等の事務に利用 ○雇用保険法による失業等給付の支給、雇用安定事業、能力開発事業の実施に関する事務 ○労働者災害補償保険法による保険給付の支給、社会復帰促進等事業の実施に関する事務 等
	福祉・医療等	保険料徴収等の医療保険者の手続、福祉分野の給付、生活保護の実施等に利用 ○健康保険法、介護保険法等による保険給付、保険料の徴収に関する事務 ○児童扶養手当法による児童扶養手当の支給に関する事務 ○障害者総合支援法による自立支援給付の支給に関する事務 ○生活保護法による保護の決定、実施に関する事務 等
税分野		国民が税務当局に提出する確定申告書、届出書、調書等に記載。当局の内部事務等に利用
災害対策		被災者生活再建支援金の支給に関する事務等に利用
上記の他、社会保障、地方税、防災に関する事務その他これらに類する事務であって地方公共団体が条例で定める事務に利用		

社会保障・税番号制度の全体スケジュール

平成25年 5 月	番号関連法の成立・公布
平成26年度～	システム改修等の設計・構築
<u>平成27年10月～</u>	国民への <u>個人番号の通知</u> の開始
<u>平成28年 1 月～</u>	順次、 <u>個人番号の利用</u> の開始 <u>個人番号カードの交付</u> の開始 (個人の申請により市町村が交付)
平成29年 1 月～	国の機関間での情報連携の開始
<u>平成29年 7 月 目途～</u>	<u>地方公共団体・医療保険者等との 情報連携</u> も開始

社会保障・税番号制度により構築されるインフラ

マイナンバーの付番

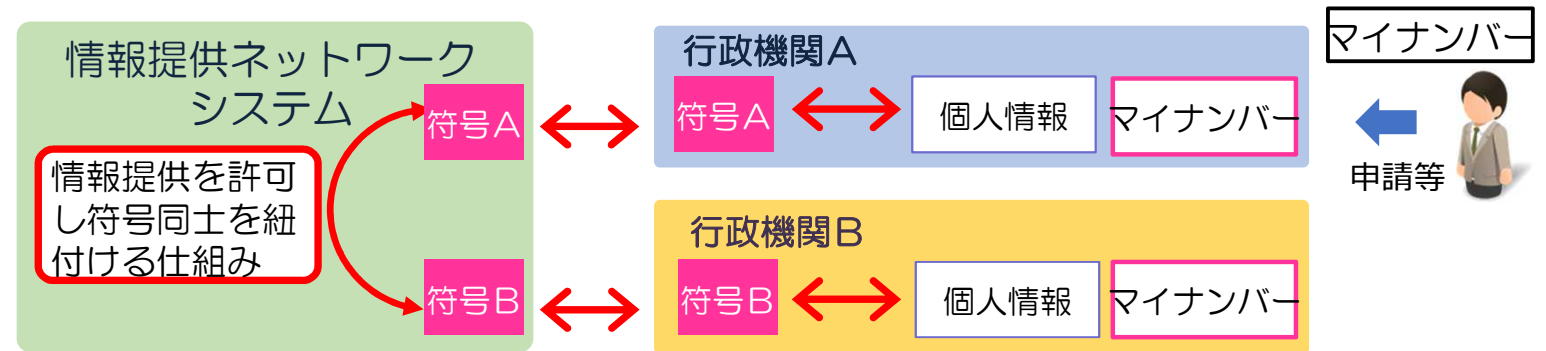
12ケタの見える番号を全員に付番

- ・ 悉皆性（住民票を有する全員に付番）
- ・ 唯一無二性（1人1番号で重複がない）



電子的符号（視認できない）を用いた情報連携ネットワーク

- 番号制度では、行政機関同士で情報照会・情報提供を行う場合、各機関ごとに異なる、**マイナンバーに対応して振り出された機関別符号**を利用
- これにより芋づる式にマイナンバーによる情報が漏洩することを防止



個人番号カード

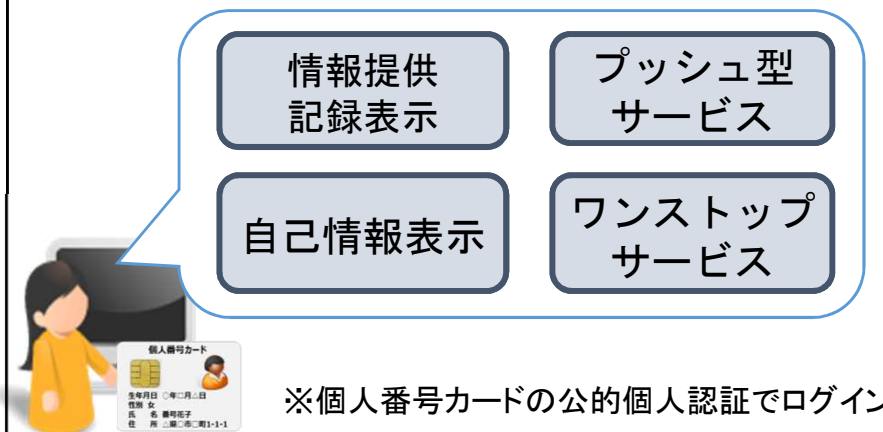
【券面】「氏名」「住所」「生年月日」「性別」「個人番号」
 【ICチップ】 上記の情報と公的個人認証機能を搭載

（表面）



マイポータル

インターネット上で、行政からのプッシュ型のお知らせサービスや、行政機関のもつ情報の本人提供サービスを実施予定。



番号制度における安全・安心の確保

○番号制度では、制度面とシステム面から、マイナンバーの利用に関する安全確保の措置を講じている。

番号制度に対する国民の懸念

- ・ 個人番号を用いた個人情報の追跡・名寄せ・突合が行われ、集積・集約された**個人情報**が**外部に漏えい**するのではないかといった懸念。
- ・ 個人番号の不正利用等（例：他人の個人番号を用いた**成りすまし**）等により財産その他の被害を負うのではないかといった懸念。
- ・ 国家により個人の様々な個人情報が個人番号をキーに名寄せ・突合されて**一元管理**されるのではないかといった懸念

制度面における保護措置

- ① 番号法の規定によるものを除き、特定個人情報の収集・保管、特定個人情報ファイルの作成を禁止（番号法第20条、第28条）
- ② 特定個人情報保護委員会による監視・監督（番号法第50条～第52条）
- ③ 特定個人情報保護評価（番号法第26条、第27条）
- ④ 罰則の強化（番号法第67条～第77条）
- ⑤ マイ・ポータルによる情報提供等記録の確認（番号法附則第6条第5項）

システム面における保護措置

- ① 個人情報を一元的に管理せず、分散管理を実施
- ② 個人番号を直接用いず、符号を用いた情報連携を実施
- ③ アクセス制御により、アクセスできる人の制限・管理を実施
- ④ 通信の暗号化を実施



個人情報保護法による措置とマイナンバー制度による措置の比較

	個人情報保護法による措置	番号法による措置
保護対象	「個人情報」（個人を特定できる情報） ※ 生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）	「個人番号」、「特定個人情報（個人番号※をその内容に含む個人情報）」 ※ 個人番号に対応し、当該個人番号に代わって用いられる番号、記号その他の符号であって、住民票コード以外のものを含む。
保護措置	（利用・提供に関する制限） ・ 個人情報取扱事業者は、個人情報を取り扱うに当たり、利用目的をできるだけ特定しなければならない。個人情報を取得したときは、本人に速やかに利用目的を通知又は公表しなければならない ・ 特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えての個人情報の取り扱うことを禁止。法令に基づく場合等を除き、本人の同意を得ないで第三者に個人データを提供することを禁止 （安全管理措置） ・ 個人情報取扱事業者は、利用目的の範囲内で、個人データを正確かつ最新の内容に保つよう努めなければならない ・ 個人データ（個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成したものを、構成する個人情報）の漏えいや滅失を防ぐため、必要かつ適切な安全管理措置を講じなければならない ・ 安全に個人データを管理するため、従業者に対し必要かつ適切な監督を行わなければならない。また、個人データの取扱いについて委託する場合には、委託先に対し必要かつ適切な監督を行わなければならない （監視・監督等） ・ 不適正な個人情報の取扱い（漏えい等）があった場合、主務大臣が権限行使（報告の徴収・助言、勧告、命令） （罰則） ・ 主務大臣の命令に違反した者は、6月以下の懲役又は30万円以下の罰金	（利用・提供に関する制限） ・ <u>個人番号の利用範囲をマイナンバー法に限定列挙し目的外利用を禁止</u> ・ 特定個人情報の提供は、情報提供ネットワークシステムを利用した情報連携等のマイナンバー法に規定する場合を除き、禁止 ・ 成りすまし防止のため、個人番号のみでの本人確認を禁止 ・ 情報連携に必要な場合等のマイナンバー法に規定する場合を除き、特定個人情報の収集・保管、特定個人情報ファイル※の作成を禁止 ※ 特定個人情報を容易に検索できるように体系的に構成したもの （安全管理措置） ・ <u>システム上情報が保護される仕組みとなっているか事前に評価する特定個人情報保護評価の実施</u> ・ 個人情報は一元管理ではなく、従来どおり各行政機関等が分散管理 ・ 個人番号を直接用いず符号を用いた情報連携を行うことで個人情報の芋づる式の漏えいを防止 ・ アクセス制御により、マイナンバー法が規定しない情報連携を防止 ・ 個人情報及び通信の暗号化を実施 ・ 情報提供ネットワークシステム等の安全性の確保 （監視・監督等） ・ <u>特定個人情報保護委員会による監視・監督（助言・指導・勧告・命令等）</u> ・ 特定個人情報保護委員会による情報提供ネットワークシステムその他の情報システムに関する総務大臣その他の関係行政機関の長への措置の要求 （罰則） ・ <u>罰則の強化</u> 例）・ 個人番号利用事務等に従事する者が、正当な理由なく、特定個人情報ファイルを提供した場合、4年以下の懲役又は200万円以下の罰金 ・ 特定個人情報保護委員会の命令に違反した者は、2年以下の懲役又は50万円以下の罰金 など

予防接種法に基づく予防接種

- 予防接種法では、伝染のおそれがある疾病の発生・まん延を予防するため、公衆衛生の見地から、予防接種を実施するとともに、予防接種による健康被害の迅速な救済を図っている。

○対象疾病

- A類疾病（主に集団予防、重篤な疾患の予防に重点。本人に努力義務。接種勧奨有り）
ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎（ポリオ）、麻しん（はしか）、風しん、日本脳炎、破傷風、結核、H i b感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症、水痘※、痘そう※
- B類疾病（主に個人予防に重点。本人に努力義務無し。接種勧奨無し）
インフルエンザ、高齢者の肺炎球菌感染症※ ※は政令事項（痘そうの定期接種は現在実施していない）

○定期の予防接種（通常時に行う予防接種）

- ・実施主体は市町村。費用は市町村負担（経済的理由がある場合を除き、実費徴収が可能）

○臨時の予防接種

- ・まん延予防上緊急の必要があるときに実施。実施主体は都道府県又は市町村。
- ・本人に努力義務を課す臨時接種と、努力義務を課さない臨時接種（弱毒型インフルエンザ等を想定）がある。

○予防接種に関する記録

- ・市町村長又は都道府県知事は、定期又は臨時の予防接種を行ったときは、①予防接種を受けた者の氏名、住所、生年月日及び性別、②実施年月日、③予防接種の種類等を記載した予防接種に関する記録を作成し、予防接種を行ったときから五年間保存しなければならない。

○副反応報告制度

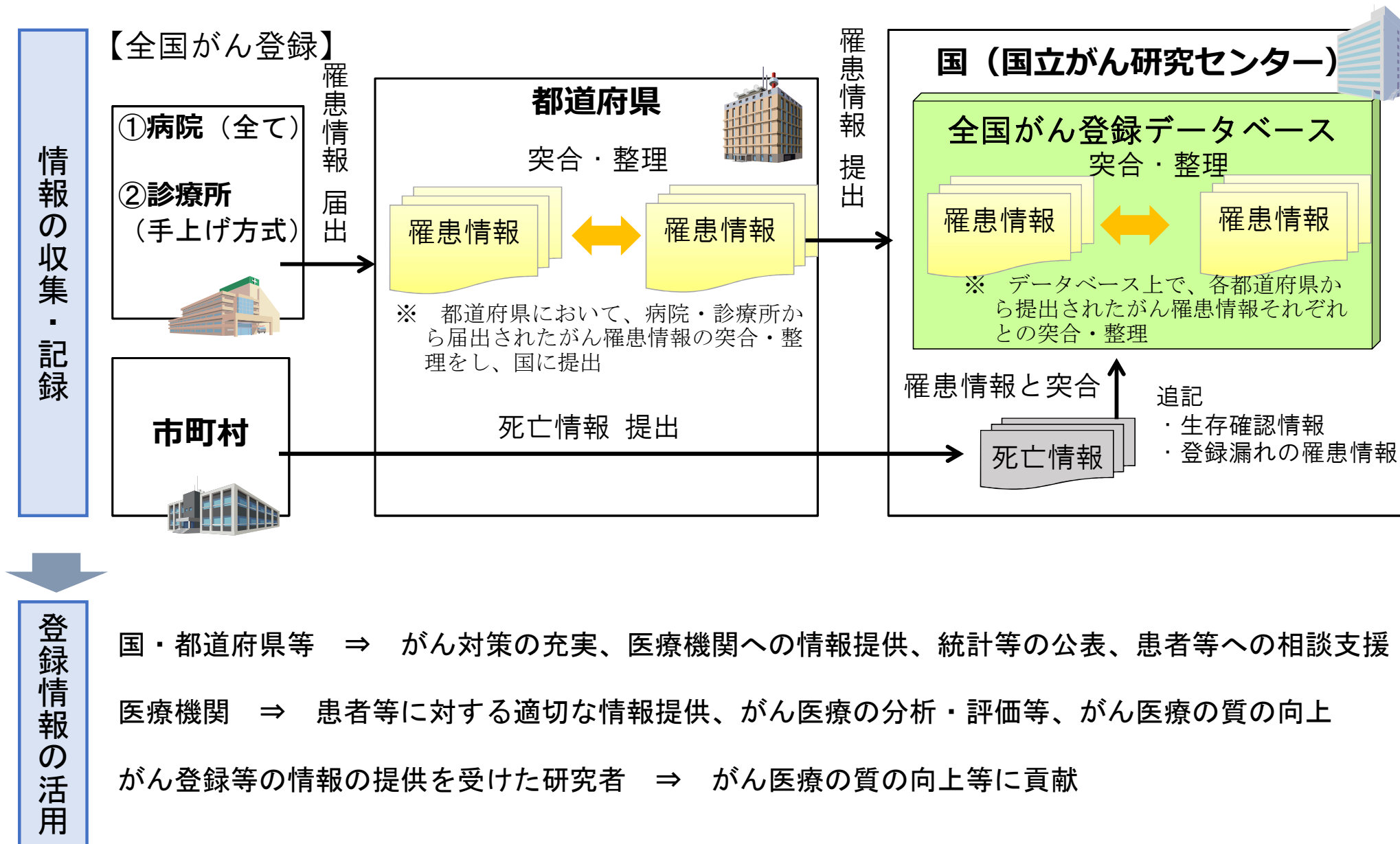
- ・医療機関等は、予防接種による副反応を知ったときは、厚生労働大臣※へ報告。厚生労働大臣は、報告の状況を審議会に報告し、予防接種の適正な実施のために必要な措置を講じる。
※平成26年11月25日から「薬事法等の一部を改正する法律」（平成25年11月27日公布）に基づきPMDAへ報告。
- ・報告の内容は、該当する予防接種を行った市町村に対して速やかに情報提供されている。

○健康被害救済制度

- ・予防接種により健康被害が生じた場合、医療費・医療手当、死亡一時金、障害年金等が支払われる。

全国がん登録の仕組み

- がん医療の質の向上、国民へのがん、がん医療、がん予防についての情報提供の充実その他のがん対策を科学的知見に基づき推進するため、「全国がん登録」等の仕組みを構築し、がん診療情報の収集を行う。



地域医療連携ネットワークの事例（平成24年度現在）

実証事業や補助事業、地域医療再生基金の活用等により、各地域レベルでの地域医療連携ネットワークが普及している。
※内閣官房が実施した各自治体等へのヒアリング調査等により、161件がリストアップされている（計画中や構築中を含む）

北海道	ITネットワーク化推進事業【南檜山】 ITネットワークシステム整備事業（道南圏地域医療再生計画） 旭川医科大学遠隔医療ネットワーク 医療介護連携ネットワーク 周産期医療連携支援システム 小児救急ITネットワークシステム（道央圏地域医療再生計画） 道南地域医療連携ネットワーク 道南Medika 遠隔画像診断システム等整備事業 診療情報共有ネットワークの構築 診療情報共有ネットワークの整備 診療情報共有ネットワークの整備【十勝医療連携協議会（仮称）】 地域医療広域連携システムDASCH（Databank of Stroke Care in Hokkaido） 地域連携クリティカルパス広域活用システム整備事業 道北クリスタルネットワーク整備事業 道北北部連携ネットワークシステム整備事業【道北北部医療連携協議会（仮）】 病診連携地域ネットワークシステム
	青森 遠隔画像診断（脳卒中手術適用判断） つがる西北五広域連合総合医療情報システム 地域医療情報共有システム構築
	岩手 4病院間システム コニカシステム ねっと・ゆりかご 周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」 地域包括ケアネットワーク形成支援システム
	宮城 宮城県脳卒中ネットワーク「スマイルネット」 みやぎ医療福祉情報ネットワーク
	秋田 遠隔画像診断ネットワーク 遠隔病理診断ネットワーク 医療情報ネットワークシステム整備事業 診療情報共有化システムの推進
	山形 Net4U OKI-net 置賜地域在宅患者情報ネットワーク 置賜地域周産期医療情報ネットワーク ちょうかいネット
	福島 県中地域がん医療推進ネットワーク 地域健康支援ネットワーク
	茨城 小児疾患連携医療事業
	栃木 栃木県地域医療連携ネットワーク とちまるネット
	群馬 遠隔医療支援画像診断システム 画像情報ネットワークシステム 群馬健康クラウドネットワーク 利根沼田遠隔医療ネットワーク
埼玉	埼玉利根保健医療圏地域医療ネットワークシステム（とねっと）
千葉	ICTを利用した地域連携システム PLANET（プラネット） 小児がん長期ケア事業 わかしおネットワーク 医療機関ITネット 松戸市電子医療情報ネットワークシステム EMI-net（エミネット）
	稲城市立病院地域医療連携ネットワーク 東京医療センターWeb 型電子カルテ “Web-NTMC”“Mobile-NTMC”
神奈川	神奈川県立こども医療センター地域医療連携システム

新潟	魚沼地域医療連携ネットワーク 佐渡地域医療連携ネットワーク「さどひまわりネット」
富山	下新川地域医療連携ネットワーク「扇状地ネット」 砺波医療圏医療情報連携ネットワーク とやま医療連携ネットワーク 中新川郡地域医療連携システム 遠隔医療モデルプロジェクト
	ICTを活用した広域連携救急画像伝送システム事業 けいじゅヘルスケアシステム 地域医療連携システム整備事業 脳卒中遠隔画像伝送システム まっとう連携くん 地域医療連携システム「百万石メディねっと」 のどの私のMy病院システム
福井	地域医療連携システム構築事業
山梨	峡南地域患者情報共有システム 富士・東部地域患者情報共有システム 慢性疾患診療支援システム
	タイムライン型診療情報連携システム 上小メディカルネット 信州メディカルネット
岐阜	大垣市民病院医療連携ネットワークシステム 岐阜県包括的地域ケアネットワークシステム（はやぶさネット） 救急医療支援情報流通システム（GEMITS） 広域災害・救急医療情報システム再開発事業
	ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにネット） 志太・榛原地域病院間診療ネットワーク事業 静岡県版在宅医療連携ネットワークシステム 中東遠地域医療再生支援センター運営事業（うち、地域医療連携システム事業）
静岡	災害時病院情報統合管理システム「MedPower」 地域連携診療情報システム「金鯱メディネット」 東海医療情報ネットワーク
愛知	MIE-NET（Mie Interhospital Emergency-NET work）構築事業 救急医療情報センター事業 三重医療安心ネットワーク 診療情報ネットワークの構築 ①県内医療機関ネットワークシステム構築事業 尾鷲総合病院情報システム構築事業
三重	ITネットワーク整備・運営事業 医療情報ネットワーク整備事業 遠隔病理診断体制整備事業 在宅療養支援センター整備事業（在宅療養支援システム） 地域医療連携ネットワーク等導入事業
	地域共通診察券「すこやか安心カード」 地域連携パス（クリティカルパス）のIT化による普及促進 病診連携システム構築等事業（丹後医療圏） まいこネット
京都	医療情報連携システム
大阪	NEXT in 西宮 かこがわ健康BOX・加古川地域住民健康情報活用システム 休日夜間急病診療所等のITネットワーク構築事業「阪神医療福祉情報ネットワーク」（仮） 診療情報ネットワークシステム構築事業 地域医療連携システム「北はりま絆ネット」
兵庫	医療情報連携・保全基盤システム すさみ町地域見守り支援システム ゆめ病院
和歌山	

鳥取	Web型電子カルテシステム構築事業（鳥取県地域医療再生計画） 周産期医療情報システム 鳥取県救急医療情報システム
島根	（島根県）広域災害緊急医療情報システム 島根県医療情報ネットワーク（通称：しまね医療情報ネットワーク、愛称：まめネット）
岡山	あんしんねっと もも脳ネット（大腿骨・脳卒中中の地域連携ネットワーク） 医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）
広島	「波と風ネット」 「天かける」医療・介護連携事業 ※総務省「健康情報活用基盤構築事業」（日本版EHR） KKR（こころ）ねっと広島 くろーばネット 県立広島病院 地域医療連携ネットワーク（KBネット） 病診連携ネットワークシステム ひろしま地域医療連携情報ネットワーク（仮称） 県立広島病院 地域医療連携ネットワーク（KBネット） 広島西部医療福祉情報ネットワーク もみじ医療福祉ネット
	医療ネットなご 地域医療連携情報システムのモデル導入
山口	遠隔医療診断システムの整備 糖尿病疾病予防管理事業
徳島	医療介護地域連携クリティカルパス かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX） 脳卒中地域連携クリティカルパス 地域医療連携ネットワーク整備事業
香川	地域医療連携支援ネットワーク構築事業 小児先天性心疾患患者に対する地域医療連携システム構築事業 心筋梗塞患者における救急隊・病院連携体制構築事業 中予地域空床管理ネットワークシステム構築事業 南予地域リハビリテーションシステム構築事業
愛媛	安芸保健医療圏診療連携システム 高知県救急医療情報連携システム 高知県中西部医療介護ICT連携事業 へき地医療情報ネットワーク 幡多医療圏地域医療ネットワーク「しまんとネット」
高知	メンタルヘルスネット事業 糖尿病疾病管理推進事業
福岡	PICAPICaリンク 糖尿病予防対策 佐賀県医療機関情報・救急医療情報システム（愛称：99さがネット） 佐賀県診療録地域連携システム
佐賀	あじさいネットワーク 救急画像伝送システム整備事業
長崎	遠隔病理診断システム 脳卒中遠隔医療支援システム 遠隔医療システム
熊本	候診機関と医療機関の連携ネットワークの整備（ゆけむり医療ネット）
大分	電子カルテの導入・ネットワーク化
宮崎	鹿児島県広域災害医療情報システム 地域連携データベース
鹿児島	沖縄県総合保健指導支援・疾病管理センター整備事業 地域医療連携体制総合調整事業 沖縄県離島・へき地遠隔医療支援情報システム
沖縄	